

# 冬期の保育衛生 (其の三)

醫學博士 廣 瀨 興

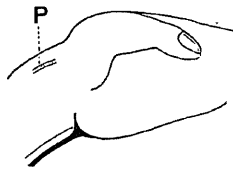
## 脈搏

脈搏の搏動變化は、熱と共に各種の疾病の診断上、或はその病の輕重の判断等に重要であつて、家庭にあつてその知識を修得し置くことは大切のこゝである。

脈搏は身體表在動脈が心臟收縮運動に依つて血流が波動傳達されて、週期的に隆起する即ち搏動を斯く唱ふるのであつて、古來最も觸知し易い橈骨動脈を觸診するのを常とするのである。脈搏を觸診するには右手の示指及中指(或は三指)を軽く橈骨動脈の(下圖のP)に貼し、強く壓迫せずして、其部の搏動の(一)度数(二)調節(三)性狀の三つを檢査するのである。

脈搏の度数は一分間平均七〇乃至七六を生理と云はれてゐるが年齢、性、身長、飲食、運動、精神の興奮によつて

も差異がある。殊に初生兒、乳兒は不定で僅少のこゝが影響するものである。右に年齢によつての生理的差異を擧れば(附・呼吸數の年齢差)。



	一分間脈搏數	呼吸數
初生兒	一二〇—一四〇	四〇—四五
乳兒	一二〇	三〇
二—三歲	一一〇	二五
五歲	一〇〇	二〇
一〇歲	八〇—九〇	一八
大人	六〇—八〇	一六

熱性病、心臟瓣膜病、心臟機能神經症(例へばバセドウ氏病)の時には脈搏頻數なるが普通である、然るに腸チフスの場合、熱に比して脈搏數の僅少なるが特徴である。

肥滿のための脂肪心、高齢、高度の餓饑、黄疸、急性關

節リュマチス、鉛アルコール中毒等の時、遅脈を來すことがある。

脈搏の調節、平常は同週期を以つて速調なるべきに時に大小不同の搏動をなすこと(不整脈)、或は一ニ休歇して一時脈搏を觸れないことがある(結代脈)。又、動脈瘤を患るときは左右の脈搏が不同時に來ることもある。

脈搏の性状、硬く或は軟く微弱に觸れることあり、心臟左室肥大(硬)、心臟機能の衰弱(軟)の時の如し。

血壓 血管の性状、伸展性の如何、病的變化によつて傳達せらるゝ血流の壓力を異するものであるから、その血壓によつて血管の健全を判断することが出来る。生理的にも年齢に依つて異なる。

	最大血壓	最小血壓(耗)
一歲	七五乃至八〇	六〇
六歲	八五乃至九〇	六五
一〇乃至一二歲	一〇〇	七五

生理的血壓を知る公式によつて簡單に知る事が出来る。

$$(1) 80 + 2 - x = B.D$$

(B、Dは幼兒の所要の血壓、xは年齢、八〇は乳兒の血壓)。

$$(2) (1) 120 + \frac{x-20}{2} = B.D \quad (\text{男子})$$

$$(\text{女子}) 120 + \frac{x-20}{2} - 10 = B.D \quad (\text{女子})$$

但し、血壓は小兒に於ては餘り診断の助けとなる場合は少い且つ測定し難い。

## 呼吸

呼吸も生理的に年齢等に依つて差異(前述の表参照)があるが呼吸器病殊に肺炎の如きは頻數となり困難なる。肺の呼吸面が小となり酸素吸收量少くなるため頻數なるのであつて酸素吸入其他で酸素不足を防止するのである。死の直前によく觀るシャイネストークス氏呼吸現象といふのは初めは極めて淺く漸次其深さを増し速度も加り遂に著しい呼吸困難の狀を呈し復た漸次呼吸淺表となり終に全く歇止し、十乃至三十秒の休歇時を置き、又初めの如く淺く逐次深く速か次て休止し繰返す如き呼吸であつて最も危

險の徴である。然るに乳兒に於ては睡眠時に應々生理的に斯の如き呼吸を営むこゝあり。

以上熱、脈搏、呼吸に就いて述べたれどもこの三者は皆な疾病の一の症狀として變調を來すものであつてこれをよく注意するときは疾病の初期を判斷し、又經過の如何を豫想し看護に萬善を盡すこゝが出来よう。

## 咳 嗽

咳嗽せきも又冬期に多い呼吸器病の一徴候である。單に軽い咳嗽のみで熱を併發せぬ場合は單純の感冒、扁桃腺腫脹の程度であるが、熱を併ふときは特に注意して、重症の初期症狀ではないかを警戒せねばならない。この際、口腔検査を必ず行ふこゝ肝要で、小兒は平素より口腔を保護者に見させる習慣を付けて置きたい。初め亂暴に或ひは舌壓への冷いもの、熱いもの等で小兒に不安を與へぬ様にするべきである。咽喉にルゴールを塗布するにも金屬製の綿棒より杉箸を、舌壓子も木製のものがよい。

口腔検査によつて知り得るこゝは扁桃腺の肥大をそれ

白い苔狀物又は斑點の附著してゐるや否、舌の表面の所謂舌苔の有無、その狀況、兩頰部内面の黃白色粟粒狀斑點の有無等である。熱があり扁桃腺に苔狀物を見、咳嗽、特に犬吠様(犬の遠吠の如く吸氣の時に長く咽を鳴らして無理に呼吸をする)咳嗽をするときはヂフテリーを疑つて一刻も早く血清注射を受くべきである。血清注射は約二十四時經過せねば効果が現れて來ぬ故早い程良い。若し效の現出せぬ中、呼吸困難を來す様なれば氣管插管法か氣管切開法を行はねばならない。前者は小さい金屬製の管を口腔より喉頭内に挿入して一時氣道を通ぜしめる法であるが仲々實行困難である。後者は外部より外科手術的に氣管に孔を開くので療治後皮膚に癩痕を残すであらう。兩者とも出來得べくば避くべきである。又、近頃豫防ワクチンも效がある。是非小兒には實施した方がよろしい。

頰部内面の粘膜に數個或は十數個の粟粒大の周圍に紅暈をめぐらす黃白斑點を見て軽度の熱を有すこゝき且つ未だ麻疹を經過せぬ小兒なれば殆んきこれは「麻疹」の初期であるを斷定してよい。次いで流涙、結膜炎、咳嗽、特有の皮

膚の紅疹を來す。即ち麻疹の早期診斷の徵候である。これを「コプリック氏斑」云つてゐる。

又、舌面が猫の舌の如くザラ／＼し、イチゴの表面の狀を呈し、扁桃腺腫脹し、咳嗽あり、顔面より漸次全身に紅斑を現出し、麻疹と異つて朱を一面に塗つた如くなる。これは「猩紅熱」である。この場合、口の周圍のみ青白に發疹を見ない皮膚を残すのが特徴である。「猩紅熱の三角」云つてゐる。咳嗽が主として夜間に多く、粘稠の咳嗽を出し、連續的傾向があり、次いで結膜充血を來す様なれば、多くは「百日咳」である。百日咳の注意は一度は豫防注射して見るこゝ。咳のため嘔吐をする故、必ず食事を再び食せしめて營養不良にせぬこゝ、日光浴をさせ且つ衣服を度々、日光に曝すこゝ、熱のないものは入浴其他特に清潔にしてやるこゝです。營養に注意せぬときは恢復が遅れ、發育不良の原因となり、又、結核等の續發症を起し易い。

#### 熱、咳嗽の手當

熱は三十七度五分位なれば冷水タオルを額部にあて、三十八度以上なれば氷囊氷枕がよい。よく幼児に氷枕をあて

るに小さいため頸から背までぬらせてゐるこゝを見るが注意すべきである。氷囊の中に氷を細く碎きて入れ、空氣を入れぬ様にするこゝ溶けるこゝが遅い。心臓を冷すときは卵形の小さい氷囊を左乳房下にあてるのであるが、餘程注意せぬこゝ胸全體を冷す恐れがある。

濕布は氣管枝カタルの徵候のあるとき行ふべき一つのよい手當であるが温湯の濕布が普通である。アンチフロヂスチン、エキホス等の泥狀濕布もあるが乾燥して胸部を緊迫するこゝがあるから注意し、斷片的に占布するこゝ、低熱のときは便である。高熱のときは普通の硼酸水濕布、キソール液の濕布の方がよいこゝがある。カラシ濕布は肺炎の時多く用ゆられる手當であるが西洋カラシ、日本カラシを温湯にて泥狀に溶き、フランテル等の布に厚くのし、その上に日本紙をかぶせ、その日本紙の方を皮膚にあたる様張るのである。數分の後、皮膚の發赤を待つてカラシが皮膚に附著せぬ様にこゝつて後、普通の温濕布を行ふのがよい。

一日二回以下が普通である。

吸入も咳の多いとき行ふのであるが吸入薬としては普通

は二%硼酸水、二%重曹水等である。鼻カタル、咽喉カタ  
ル其他で刺戟性の咳に苦しめられたときは次の處方の吸入  
が效がある。その中のアドレナリンが效くのであらう。

處方 重曹

四・〇

食鹽

一・〇

グリセリン

八・〇

鹽化アドレナリン

十滴

水

四〇〇・〇

右吸入料

吸入は一日三四回を行ふこゝ、乳幼児にて餘り嫌つて暴  
れる様のときは睡眠中横の方より、蒸氣を細く出して長く  
行ふもよい。

室の乾燥を防ぐため湯氣を立てる習慣があるが餘り室内  
の湿度を高めるは一般衛生上、宜しくない事がある。湿度に  
就いては既に述べたが無風の時は濕球寒暖計華氏五十六度  
が快感點であり、若し同六十五度に上昇したなら五百呎の  
風速がなければならぬのである。此點よく注意して過度  
に湿度を高めぬ様にせねばならぬ。(冬の保育衛生の項終り)

## 原稿募集

### 題目『保姆の初經驗を語る』

若い方々の新鮮な御感想を奮つて御寄稿  
下さい。

締切 三月十五日迄

宛名 東京市小石川區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會編輯部